

浄願寺だより

H27冬No.3

遠方にお住まいのご門徒さんから定期的に近況を聞かせてほしい、ご要望があり、このたび「浄願寺だより」としてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめお知らせしようと思います。夏冬二回の発行を予定しています。

平成二十七年一月一八日発行

編集責任者

浄願寺住職 関秀法

水害の中で出会った灯

住職 関秀法

あけましておめでとうございます。

昨年は八月の集中豪雨により、福知山市内全域の多くの家屋が浸水し、甚大な被害を受けました。ご存じのとおり、浄願寺のある上篠尾は小高い丘陵地にあり、いままで水がついたという話は聞いた事もなかったのですが、今回は上流の山から流れてきた土砂や流木が弘法川の橋桁に詰まり、そこから水があふれ出して、周囲の多くの家々に床上・床下浸水の被害をもたらしました。また篠尾新町、厚中、内記などのご門徒の家々も大きな被害がありました。私たちにあって本当に思いもよらぬ出来事でありましたが、人的な被害のなかったことだけが唯一の救いでありました。

しかしながら、被害を受けられたお家の方々が、代々受け継いだ家具や、思い出の詰まった品々を、一時に泥と一緒に捨ててゆかざるを得なかった心中を思うと、今でも胸の詰まるような思いがします。

そうしたなか、水害の起った二

日後に私はある一軒のご門徒さんの家に被害の様子を伺いに行きました。状況は家の人に訊ねるまでもありませんでした。家の壁には私の腰高ぐらいのところに泥の線が入っており、もうすでにボランティアの人たちがその日の作業を終えられたあとでした。畳も建具も家具もみな庭先に無造作に積み上げられており、床下の泥を掻くために、床板も全部めくられ、湿気た山土のにおいがたちこめていました。大きな家が屋根と柱だけの薄暗いがらんどうの空間になっていて、それはなんともいえない、わびしい、かなしい光景でした。私はしばらく言葉が出ませんでした。つい数日前にお盆参りに伺って、その家の賑やかな様子を見ていただけに、あまりの変わりようにショックを受けたのかもしれない。

しかし、その変わり果てた家の中に、ただ一つだけ、水害前と変わらないものがありました。薄暗い部屋の奥のほうに浮かび上がるほのかな光があるのです…。それはお仏壇のお灯明の光でした。お仏壇も下

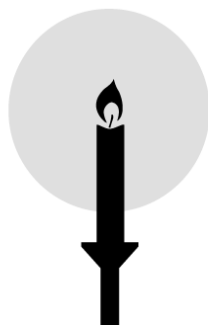
の方は泥をかぶっていました。でもその家の人は、夕方のお勤めの時間にはちゃんとロウソクに火をともし、仏様に一日のお礼をなやっていたのです。家具も何もない、床板さえない、柱だけになった薄暗い家の中で、仏様のお灯明はひと際、やさしく、たのもしくその家の人たちの心を照らしてくださっているように見えました。その仏様のお姿の尊さに、私も気が付けばその場で合掌して「なんだぶつ」と申ししていたことでした。

お仏壇に供えるロウソクのともしびは、仏様の智慧の光を象徴したものだと言われています。「智慧」とは「ものごとをありのままに見て、受け入れる」心のことです。この世のあらゆるものは移ろいゆく、片時も同じ所に留まっているものはない。物は作られ、壊れゆく。命は生まれ、死に帰してゆく。私たちの世界のありのままの姿を見て、受け入れる心を「智慧」といい、お仏壇のロウソクに火をとますたび、本来何一つ持たず、移ろいゆくわが身である事を思い出させていたのです。

また同時に、私たちはこの人生で手に入れたものを一つまた一つと手放して、最後には柱だけの空っぽの家のようになってこの世を去って行かねばならない定めではありますが、仏様は、そんな私たちのかなしみをやさしく包み込んで、「必ずあなたをお浄土につれて行きます、何があっても安心して生きよ」とおっしゃってくださいている。その仏様の御心のぬくもりをお仏壇の灯の中に感じながら、日々お念仏させていただく。これもまた仏様から賜った智慧の心でありましょう。

この度のたいへんな水害の中で、いつもどおりお仏壇に明かりを灯して一日のお礼を申し上げられたそのご門徒さまの心には、間違はなく、仏様の智慧の光が届いていらっしやうのだと思います。

平成二十七年元日



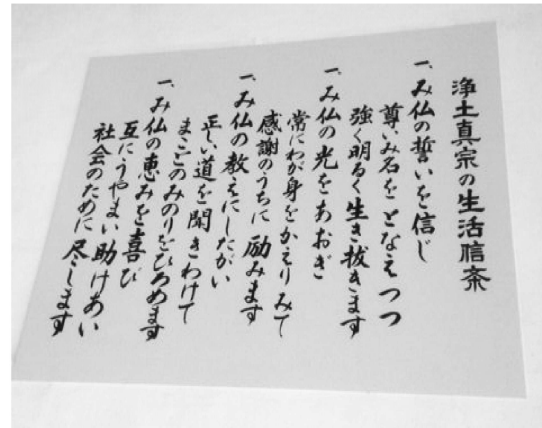
浄土真宗の

生活信条

浄願寺本堂の壁に「浄土真宗の生活信条」が長年掲げられています。これは、以前下篠尾にお住まいであった、故塩見勘治先生の書によるもので、力強く温かな書体で真宗門徒が日々心すべき要目が記されています。

この「生活信条」が、経年によりずいぶん紙が傷んでいたのを、あるご門徒様が先生の文字はそのままに、丈夫なパネルにしてくださいました。

新しくなった「生活信条」を見上げては、その言葉を胸に刻ませていただきたいと思います。



塩見先生筆・浄土真宗の生活信条

門徒の広場

門徒の広場は
WEB版ではご覧いただけません

浄願寺

永代供養墓

お墓の管理や、後継者に不安をお持ちの方へ。
永代供養墓への埋葬・改葬も選択肢の一つです。

浄願寺永代供養墓は車道に面してお参りのしやすいお墓です。
詳しくは浄願寺ホームページか住職までおたずねください。

編集後記

私は若いころに車の免許を取り損なうて、そのまま今も運転ができません。今からでも取れば、という声もあるのですが、遠方には坊守か、誰かしら親切な方が送ってくださいいますし、特段不便は感じません。それより、僧服で歩いているという人な人が話しかけてくれます。小さなものもよく見えます。すべてが大急ぎで流れて行くこのご時世、お坊さんぐらいいはゆっくり歩いていても許されるのではと思っているのですが、どうでしょうか……。

浄願寺だよりはインターネットでもご覧になれます。

浄願寺ホームページ

<http://www.jyouganji.com>

お寺の掲示板より

あたらしく
厳しき身を
むかえよと
寺々の鐘は鳴る

字・関秀實

浄土真宗本願寺派
笹尾山 浄願寺

〒620-0925

福知山市上篠尾725

電話(0773)-22-5280

email jyouganjiweb@gmail.com

<http://www.jyouganji.com>

住職 関 秀法